

## 令和3年度第4回阿波おどりネットワーク会議 議事概要

日時：令和3年6月29日（火曜） 午後3時～

場所：徳島市役所13階 大会議室

議題：2021阿波おどりについて

出席者：委員17名

内藤座長（徳島市長）

利穂委員（徳島県観光政策課長）

鈴田委員（徳島市経済部長）

矢田委員（一般財団法人徳島県観光協会 理事長）

佐藤委員（公益財団法人徳島県文化振興財団 理事長）

犬伏委員（公益財団法人徳島市文化振興公社 事務局長）

山田理事長（阿波おどり振興協会 会長 朝日委員代理）

池田委員（徳島県阿波踊り協会 副会長）

七條委員（徳島県阿波おどり保存協会 理事長）

森浦委員（徳島県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長）

木内委員（徳島商工会議所青年部 会長）

小松委員（公益財団法人徳島経済研究所 事務局長）

高木委員（水際文化村フレンドリー協議会 会長）

長谷川氏（NPO 法人新町川を守る会 理事長 中村委員代理）

鈴江委員（徳島都市開発株式会社 代表取締役社長）

中谷委員（つなぐ阿呆とくしま 代表）

東委員（徳島大学病院 感染制御部部长）

### 【会議の内容】

#### 1 開会

#### 2 意見交換

2021阿波おどりについて

（内藤座長）

2021阿波おどりニューノーマルモデルの事業計画については、とくしまアラートの状況を基本とし、全国の感染状況を踏まえ総合的に判断すると説明を行ってきた。また、感染対策マニュアルについても、ネットワーク会議からの意見や東委員からもアドバイスをいただきながら策定したところである。

事業計画を発表後75連から参加表明があった。踊り手の中には職場からの指示や

家族の状況で参加を断念せざるを得なかった方もいる中で、参加申込のあった方々には何としても踊っていただきたい。また、報道番組で徳島商業高校の阿波おどり部の練習風景を見て感動し、阿波おどりを次世代へ継承してくことは徳島市のミッションであると改めて決意をしたところである。

先日とくしまアラートは解除されたが、8月15日までは第5波早期警戒期間となっている。また、県外では、感染力の強い変異ウイルスの確認や東京では感染者が増加傾向にあり、以前として予断を許さない状況下を踏まえ、75連全員が参加できるモデルAは断念せざるを得ないという結論に至った。モデルB（屋内会場のみ）での開催を基本に議論いただきたい。

しかし、前夜祭や選抜阿波おどりでは有名連しか参加しないため、次世代へとつなぐということから少し意味が異なってくる。踊りたい一般連、学生連などの踊る場の提供については、事業計画（案）では触れられていない。コロナ禍での阿波おどりをどのようにすれば、皆が気持ちよく踊れるのか、また、未来へ阿波おどりを繋いでいけるのか。そういったことを踏まえて議論いただきたい。

事務局からの説明後に一括で意見交換を行うので、まずは、事務局から資料説明をお願いしたい。

（事務局）

資料1 2021阿波おどり～ニューノーマルモデル～事業計画（案）

資料2 新型コロナウイルス感染症対策実施マニュアル

上記資料について説明。

（内藤座長）

今回の開催判断、規模に関してまずは踊り団体から意見をお伺いしたい。

（池田委員）

阿波おどりと言えば栈敷というイメージがあるが、徳島市内も県内もまだワクチン接種が進んでいない状況なので、今回の開催判断については、やむを得ないと思う。

（山田委員）

阿波おどりに携わっている団体として、非常に残念だと言わざるを得ない。先日、徳島県から8月15日まで第5波早期警戒期間ということで、新型コロナウイルス感染症対策について、慎重な対応を求めていきたいという発表があり、現状を考えると、栈敷の運営については断念せざるを得ないという意見である。

事務局からモデルBについて説明があったが、冒頭に市長からの次世代へ繋いでいく、また、参加申込のあった75連の参加希望も叶えて差し上げたいという発言を踏まえて何らかの形でもう少し模索をしていきたい。300を超える踊り連に呼びかけをして、75連の参加希望があった。それに対して、75連しかないという報道があるが、踊り手からすると、医療従事者など、踊りたくても踊れない人がいる中で、75連の参加申込数は多いと認識している。75連の思いを無駄にしないよう、何らかの形で踊れ

るように検討いただきたい。

選抜阿波おどりについて、コロナ禍という状況で、徳島県阿波踊り協会から出演できる連は少なく、出演する連員も制限される中で、これまでと同じようなクオリティを求めていくことは、自分の協会（阿波おどり振興協会）を見ても難しいと思う。そういった中で、コロナ禍において開催する意義を伝統文化の継承、次世代への継承に力点を置きながら、少しスタンスを変えて、入場料を軽減または無料にする。さらには次世代を担う学生連に出演いただくことなども検討いただければと思う。また、開催日時についても、場合によっては検討しておくことも必要だと思う。

(七條委員)

プラン B になったということで、私たちの団体としては残念な結果であるが、徳島の阿波おどりが安心安全で踊れることが大切である。この阿波おどりニューノーマルモデルを来年に繋げていただき、徳島県阿波おどり保存協会も来年は参加させていただきたい。

(内藤座長)

他の委員からもご意見をいただきたい。

(森浦委員)

藍場浜公園に栈敷を設営するモデル A を断念してモデル B で進めるということだが、これが観光振興になるのか。また、なぜモデル A を断念したのかを説明いただきたい。

(事務局)

昨年、藍場浜演舞場で阿波おどりネクストモデルを開催したが、その時から、新しい知見や感染症の状況が変わってきており、市民、県民の皆様や参加される踊り手、観客の安全安心を第一に考え、慎重に検討を重ねた結果モデル B とさせていただいた。阿波おどりでの人の流れ、雑踏対策などの様々な要因を検討したところ、非常に判断を悩んだところではあるが、今年については、藍場浜演舞場の開設は断念したところである。

(森浦委員)

昨年の阿波おどりネクストモデルを開催して、トラブルや不都合はあったのか。

(事務局)

阿波おどりネクストモデルの検証結果としては、概ね、順調に開催をしたところではあるが、部分的に密集状態が発生した。ネクストモデルの経験については、練習時からの感染防止対策の考え方、観客誘導への応用、コロナ禍における演出方法など、得られた部分もあると考えている。

(内藤座長)

開催判断について付け加えるとすると、夜の開催となることや開催時期が夏場の 12 日から 15 日であるという理由もある。

(鈴江委員)

モデル A を断念することは非常に残念であるが、やむを得ないことだと思う。モデ

ル B ではあるが開催することで来年に繋がっていくと考えている。徳島市の阿波おどりの魅力を広く発信していただきたいと考えおり、徳島都市開発株式会社としてもお盆期間にアミコビル内で何かできることはないかと考えている。

今回は屋内開催ということで、洗練された有名連の踊りであり、これが阿波おどりの最大の魅力ということで、楽しみにしているところであるが、参加申込のあった75連の中のいる学生などの若い人たちはこれからの阿波おどりを担っていかなければいけない、非常に大切な人だと思う。このコロナ禍でも色々な工夫をしながら練習をしていると聞いており、徳島の阿波おどりを継承するためにも、そういった方々を踊らせてあげたいと思っているので、検討いただきたい。

(東委員)

学生連を出させてあげたいという気持ちはわかるが、大人より少し気が緩みやすい年代であるので、感染症対策マニュアル遵守をしっかりと落とし込める、また、教員の方がしっかりと責任を持っていただけるのであれば、参加についても可能かもしれない。

参加申込のあった75連については、私も多いと感じており、75連に対してガイドラインをしっかりと落とし込んで、感染者を出さない。これをしっかりと守っていけば感染者が出ないはずなので、しっかりと守っていけるかどうかを注意していくことは徳島市の責任であるので、その点についてお願いしたい。

(矢田委員)

第1回、第2回の会議の時には、開催は無理ではないか、他のお祭りは全て中止となっている中で、今後どうなるのか分からないが、開催が見えてきたと思う。

県外の方から「阿波おどりは開催するのか」とよく聞かれる。今回開催する意味というのは、他の祭りが中止となっている中、規模縮小とはなるが、開催していることを発信していくことで徳島県の阿波おどりの特別感を出せる。今後、その街に行ってみたいという非常に強い観光PRとなるので、しっかりと取り組んでいただきたい。

今回は県内在住の方を対象にチケット販売を行うことになり、チケットをどう捌いていくのか。販売する方法やチケット販売の収支を合わせていくために事務局で検討いただければと思う。

(事務局)

収支や販売方法については、確定している部分はないが、極力県内の方にお越しただけのような広報や販売方法を検討していきたい。

(内藤座長)

先程の山田理事長からの意見で、例えば無料でチケットを販売というのではなくて、料金を変更するというのも事務局としては検討の余地があるのか。

(鈴田委員)

チケット料金の変更や無料にする意見について、今回のニューノーマルモデルの基

本的な内容は、これまでの阿波おどりの事業計画をベースに入場料金等を設定している。このコロナ禍での計画ということで徳島市の責任で様々なことを決定しながら事業を進めさせていただいている。今回、モデル A からモデル B になったことで、阿波おどりのお祭りとしてのにぎわいは少し薄れる形になるが、今までなされてきた選抜阿波おどりや前夜祭の卓越したパフォーマンスを披露する伝統文化としての催し、次世代へ繋いでいくという意味合いからすると、公益的な事業の意味合が色濃くなっていると感じている。収支についても十分に検討していくが、そういったことも踏まえながら、日程、出演連、料金等については、早急に検討させていただきたい。

(犬伏委員)

モデル B ということで、シビックセンターでの踊りステージの開催はなくなったが、何らかの形で阿波おどりを盛り上げる協力したいと考えている。

(木内委員)

モデル B ということで、抑制的な方向になったのは、致し方ないと思う。

選抜阿波おどりや前夜祭をオンラインで配信するなど、来年以降、阿波おどりの魅力を発信していくために、例えば有名人の踊りをコンテンツとして撮影したり、高円寺や南越谷などの有名なところとオンライン上で何か一緒にできればと思う。商工会議所として、来年以降は色々な面で協力できればと考えている。

(山田委員)

先程の鈴木委員からチケット販売について意見があったが、選抜阿波おどりの形態について事務局で検討するとのことだが、入場料を無料にした場合と有料にした場合では会場借り上げ料に差があったと認識しているので、そういったことも加味して検討いただければ、より良いものになっていくと期待している。

(小松委員)

先程の山田委員からの意見もあって、おどり連の練習やクオリティの問題もあるので、料金についてはもう一度考えていくことは必要だと思う。また、会場があわぎんホールということで、アスティとくしまに比べるとステージや控室もあまり広くないので、3密対策をしっかりとっていただきたい。

2点目として、徳島市が直接的に関係してくる部分ではないかもしれないが、ワクチンの職域接種というのが始まっており、企業ではないが、各踊り協会についても、そういった政策を検討されていることがあれば伺いたい。

(山田委員)

先程の2点目の質問に対して、事務局というよりも踊り協会としての意向はどうかということだったと思うので、意見させていただければと思う。前回のネットワーク会議の時には既に職域接種が開始されており、この参加申込があった75連について、職業でということではないが、可能であれば優先的にワクチンを打っていただくことはできないかということ意見を聞いたかったが、今の社会情勢を鑑みると、踊り手だけ

なぜなのかという反発を出されることが、このネットワーク会議の妨げになってはいけないということを考えて、敢えて発言をしなかった。その気持ちは以前から持っていたということはお伝えさせていただければと思う。

(森浦委員)

個人的な話となるが、旅館を経営しており、踊る場所や栈敷チケットの購入方法などの問合せが県外の方から1番多く来ている。例えば、ワクチン接種をされている方も多くいるので、ワクチン接種証明書の提示を条件にするなどして、県外の方も条件に来ていただく、できるだけ多くの人に安心安全で来ていただけるように検討いただければと思う。

(東委員)

コロナの世界的状況を見ても、ワクチンを2回打ち、それがフリーパスのように使えるというのは、ある程度集団免疫が必要となる。おそらく日本であれば6割くらいの方が接種したうえで、海外などにも行けるようになる。イギリスでは60%の方がワクチンを打っているが、変異株で感染が増えている。ただ、死亡率は頭打ちになっている。高齢者を含んだ成人者ほとんどが打っていて、感染しているのは、若年者だけで、変異株に対して若年者をターゲットにワクチン接種をイギリスでは進めている。来年以降は陰性証明などを活用して経済を回していくことができるかもしれないが、現時点で、まだ日本はその段階ではないと思う。ワクチン接種をしても完全に防げるものではなくて、感染をしても発症を防ぐ効果しかない方もいるので、それが逆に日本の感染源になってしまう。いずれは経済を回していくために必要だと思うが、現段階ではまだ早いと思う。

(森浦委員)

ワクチン接種という制度があり、完璧ではないかもしれないが、感染症対策を行えば県外の方が参加できるような対応ができると思うので、検討いただければと思う。

(池田委員)

参加申込があった連が75連とあるが、この中で舞台踊りができる連は何連くらいあるのか。その数によって選抜阿波おどりの日程が変わってくると思うが、事務局から改めて75連に対して舞台踊りができるのかを確認するのか。

(鈴田委員)

参加申込いただいている75連については、モデルBで進めていくことの連絡や意向確認をしなければいけないと考えているが、選抜阿波おどりについて、新しい提案もいただいているので、まずは、事務局で検討させていただければと思う。

(山田委員)

先程の鈴田委員から意見を聞いて、今のような形で進めていくとなかなか結論が出ない。事務が後ろにずれ込んでいくだけである。

市長からモデルAは断念という発表を出されて、それが概ね認められている。現段

階ではモデル B を優先していくことになり、そうなれば参加申込があった 75 連は出演できないという判断になる。ただし、次世代へ伝統文化の継承の強く求められており、舞台踊りで参加できる連もあるので、徳島県阿波踊り協会と連携しながら、意見聴取をする会議を 1 日でも早く開くことが必要になってくると思う。

(佐藤委員)

アスティとくしまと違って、非常にスペース狭く、色々な面で活躍される踊り手のご期待に沿えるような設備がないという施設ではあるが、当日はできるだけたくさんの部屋を確保して、踊り手が密にならないよう、また、ご来館いただくお客様方の動線を十分に考え、感染対策の徹底できればと考えている。前夜祭や選抜阿波おどりの時にどうなるかは分からないが、他の催しと同様に本館も全スタッフをあげて、しっかり感染対策をとったうえで、踊っていただきたいと考えている。

2 点目は、前回の会議で申し上げたように、本館で前夜祭を開催するのは初めてであり、スタッフも経験がないので、舞台監督を配置していただき、感染症対策を含めて、早めに打ち合わせを行っていただきたい。

3 点目について、当館は徳島県から指定管理を受けており、入場料を徴収する場合は、減免措置を徳島県に出すことはできない。ただ、無料となると、減免措置を徳島県に提出して、会館使用料を県の方で検討していただけると伺っているので、事務局で検討いただければと思う。

(山田委員)

佐藤委員から意見があったが、文化振興財団の中に素晴らしいスタッフが既に配置をされており、舞台監督についても、一昨年も仕切られた方がいるので、問題ないと認識している。また、徳島県阿波踊り協会と前夜祭等の打ち合わせも着実に進めている。専門スタッフも文化振興財団にあり、また、照明業者等の顔合わせを含め、早急に会議を開くように事務局に依頼しているおり、安心していただければと思う。

(内藤座長)

本日皆様からいただいた意見を踏まえ、徳島市で早急に検討し、開催内容を確定したいと思う。まずは、安全安心な阿波おどりを開催し、徳島市の阿波おどり PR していく。阿波おどりというブランドを他の県にも売り出し、来年にも続く、次世代に続くものとなるよう頑張っていきたい。内容が決まり次第、事務局から委員、プレスにも発表させていただきたい。

## 5 閉会